

令和3年度

事業報告書

第16期事業年度

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日



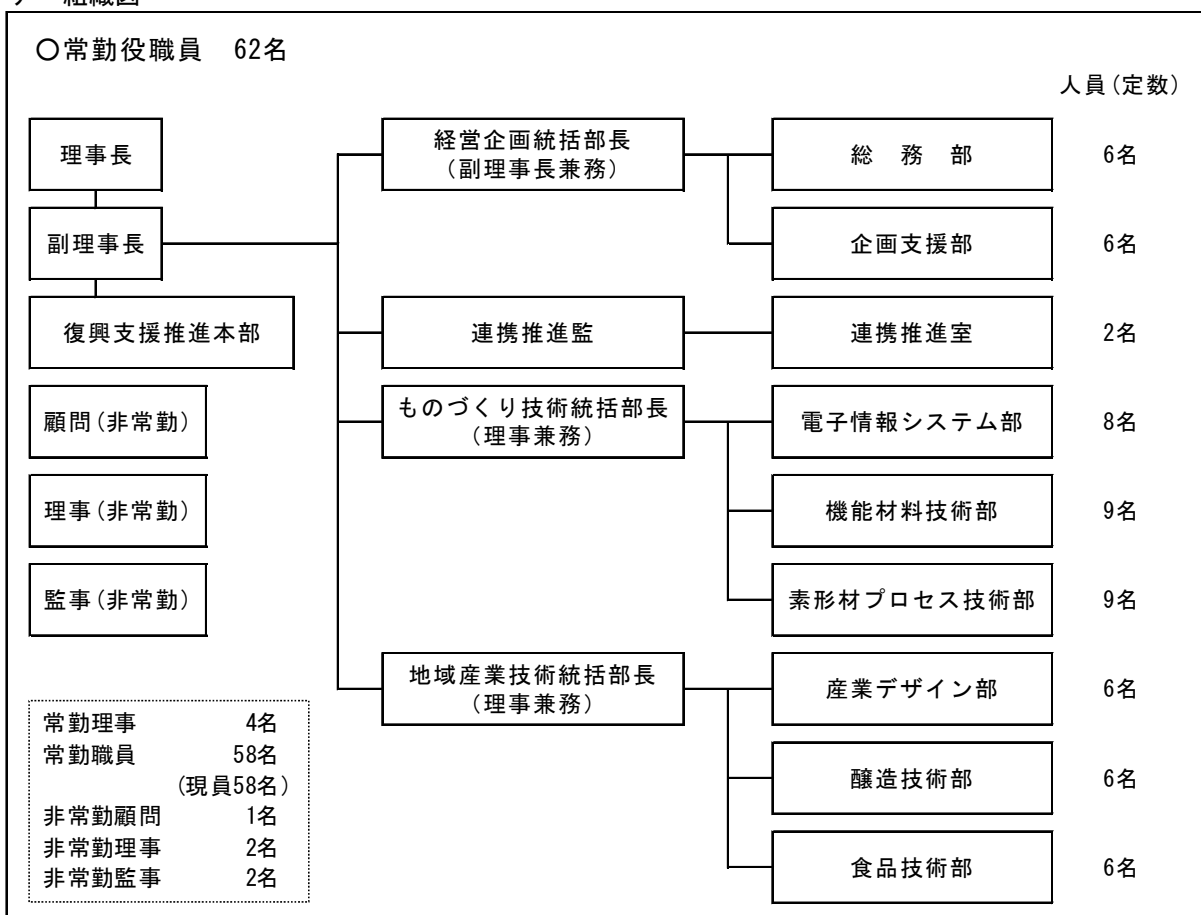
地方独立行政法人
岩手県工業技術センター

1 法人の概要

- (1) 法人名
地方独立行政法人岩手県工業技術センター
- (2) 所在地
岩手県盛岡市
- (3) 設立に係る根拠法
地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）
- (4) 設立団体の長
岩手県知事 達増 拓也
- (5) 資本金の額及び出資者ごとの出資額
49 億 6,958 万 6 千円（全額岩手県による出資。前事業年度からの増減なし。）
- (6) 業務内容
 - ア 公共的施設「岩手県工業技術センター」の設置及び運営
 - イ 工業技術に関する相談、試験研究、分析その他の支援
 - ウ 法人以外の者からの委託、又はこれと共同して行う研究の実施、及び法人以外の者との連携による試験研究の実施
 - エ 「岩手県工業技術センター」における試験研究の成果の普及、及びその活用の促進
 - オ 知的財産に関する情報の収集及び提供、並びに知的財産権の活用の推進
 - カ 前各号に附帯する業務
- (7) 役員の状況
別表 1 のとおり。

(8) 組織

ア 組織図



(人員は令和4年3月31日現在)

イ 常勤職員に関する事項

- (ア) 職員数
62名(再任用を含む。前事業年度からの増減なし。)
- (イ) 平均年齢
48歳11か月(令和4年3月31日現在)
- (ウ) 法人への出向者
なし。

ウ 非常勤職員の数

なし。

(9) 法人の特徴等

ア 沿革

地方独立行政法人岩手県工業技術センター(以下「センター」という。)は、明治6年(1873)に岩手県勸業試験所という名称で、農工振興を目的に日本で最も古い公設試験場として創立されました。大正10年(1921)には岩手県工業試験場と改称され、工業系試験研究機関としての原型が完成しました。

その後、昭和18年(1943)、岩手県工業指導所と改称し、昭和27年(1952)には醸造部を設置しましたが、昭和41年(1966)には同醸造部が分離独立し、岩手県醸造試験場(後の醸造食品試験場)として発足、昭和43年(1968)工業指導所は紫波郡都南村津志田(現盛岡市津志田)に庁舎を新築し、再び岩手県工業試験場と改称しました。

平成6年(1994)、県の試験研究機関再編のトップを切って、岩手県工業試験場、岩手県醸造食品試験場の両試験場が統合され、現在の場所に岩手県工業技術センターとして開所しました。

平成15年(2003)に金属材料部と化学部を統合し、材料技術部を設置。応用生物部と食品開発部を統合し、食品技術部を設置。9部制から7部制へと再編が進みました。平成17年(2005)には特産開発デザイン部を廃止し、企画情報部とデザイン部門を統合して企画デザイン部を設置したほか、環境技術部を新たに設置しました。

以上のような変遷を経て、平成18年(2006)4月、全国公設試初の地方独立行政法人としての歩みを開始いたしました。

以降、平成19年(2007)には、食品産業の支援強化を図るため食品技術部と醸造技術部を統合して食品醸造技術部を設置し、平成20年(2008)には一部部間の職員の再配置を行い、電子機械技術部を電子情報技術部と改称しました。平成24年(2012)には支援体制の強化や支援機能の一層の充実を図るため、環境技術部と材料技術部を統合し、ものづくり基盤技術第1部及び第2部として再編整備し、企画デザイン部を企画支援部として改組しました。また、所内プロジェクトチームとして復興支援室を設置し復興支援業務の推進体制を整備しました(平成25年に復興支援プロジェクトチームに改称、平成26年には復興支援推進本部として体制を拡充)。平成26年(2014)には、内部調整機能や技術部門の復興・技術支援機能の強化のため、企画支援部にあったデザイン・木工部門をデザイン部に、食品醸造技術部を醸造技術部と食品技術部に再編整備しました。平成28年(2016)には、電子情報技術部、機能表面技術部、素形材技術部の3部を統括する、ものづくり技術統括部長並びにデザイン部、醸造技術部、食品技術部の3部を統括する地域産業技術統括部長を置くとともに、連携推進室を設置しました。平成30年(2018)には、国際規格に対応した大型電波暗室などを備える新たな研究施設「ものづくりイノベーションセンター」を開設しました。令和元年(2019)には、電子情報技術部を電子情報システム部に、機能表面技術部を機能材料技術部に、素形材技術部を素形材プロセス技術部に、デザイン部を産業デザイン部と改称し、デザイン支援の拠点として「デザインラボ」を開設しました。令和2年(2020)には、ヘルスケア関連産業の集積と拠点形成を図るため「ヘルステック・イノベーション・ハブ」を開設しました。

イ 基本理念と中期目標・中期計画

センターは、企業や地域が気軽に相談できるサービス機関を目指し、「創るよろこび」を共有しながら産業振興と県政課題解決の両面において「地域貢献」することを基本理念としています。

県が策定した第4期中期目標では、センターはSociety5.0やSDGs等の大きな社会情勢や環境の変化にも柔軟に対応しながら、経営資源の一層の効果的・効率的な配置等による支援体制の強化と安定的な業務運営を図り、質の高いサービスの提供と、企業等の生産性や付加価値の向上等への取組を通じて、本県産業の振興と県政課題の解決に貢献するとしています。

この中期目標を受けてセンターでは、目標達成のための道筋を、より具体的に示す第4期中期計画を策定し、各般にわたる活動に取り組んでいます。

2 全体的な状況とその自己評価

(1) はじめに

センターは、平成18年4月に、全国初の地方独立行政法人（以下「独法」という。）である試験研究機関としてスタートを切り、以降、着実な運営を行ってきました。

センターは、独立行政法人に移行するに当たり、中期目標に基づく5年間の中期計画を策定するとともに、毎年度、年度計画を取りまとめ、それらに基づく組織運営に努めています。

独法化初年度の平成18年度より独法化メリットを生かした新規サービスを開始し、目標を超える成果を示しましたが、続く平成19年度から22年度においても法人運営を安定的な軌道に乗せる着実な実績をあげてきました。

平成23年度から27年度までの第2期中期計画期間は、東日本大震災津波からの復旧・復興を最重要課題とし、所内に設置した「復興支援推進本部」を中心に、組織を挙げて被災地の復興に向けた支援事業に取り組みました。また、企業のニーズに的確に対応する支援体制の強化、戦略的な研究開発に基づく地域産業の振興に向けて各般の取組を展開しました。

平成28年度から令和2年度までの第3期中期目標期間においては、技術支援や共同研究等の質の高いサービスを基本に、本県の産業振興に貢献する各種取組を推進するとともに、支援機能等をより一層強化するため、「ものづくりイノベーションセンター」、「デザインラボ」及び「ヘルステック・イノベーション・ハブ」の整備に取り組みました。

独法化16年目を迎えた令和3年度は、第4期中期目標及び中期計画の初年度に当たり、過去15年間の成果を生かしながら本県の産業振興に貢献するべく、基本方針として次の3項目を定め、各種業務に取り組みました。

1 企業に信頼されるセンターの構築

- ・ 本センターの基本理念である「創るよろこび、地域貢献」のもと、社会環境の変化に対応しながら、経営資源の一層の効率的・効果的配置と安定的な業務運営に取り組み、技術支援と研究開発の推進により、企業の成長や地域社会の発展に寄与する。
- ・ 地方独立行政法人岩手県工業技術センター人材育成ビジョン（以下「人材育成ビジョン」という。）に基づく職員研修を通じ、職員の資質向上とモチベーションの向上を図る。

2 県の課題解決に向けた取組

- ・ 東日本大震災津波からのより良い復興に向けて、センター内に設置した復興支援推進本部を核に、関係機関と連携・協働しながら、生産性の向上や新たな価値の創造に向けた取組を技術面から支援する。
- ・ 自動車・半導体や医療機器など、県の重点産業分野について、県内企業の参入に向けた技術支援等に取り組む。特に、ものづくりイノベーションセンターの運用によるI・O・T、三次元デジタル技術等を活用した「ものづくり革新」や製品の国際化対応、ヘルステック・イノベーション・ハブの運営によるヘルスケア関連産業の拠点形成に向けた技術支援を積極的に実施する。
- ・ 地場産業の持続的成長や海外展開に向けて、新商品開発やブランド化、生産性の向上等のための技術支援等に取り組む。

3 研究開発型・課題解決型企業の創出と関係機関との連携・協働

- ・ 研究開発型・課題解決型企業の創出に向け、企業ニーズに基づく共同研究や人材育成に取り組む。
- ・ センターの研究成果等の技術移転に取り組み、技術移転先企業における事業化を支援する。
- ・ 限られたセンターの資源を生かし、企業等の幅広いニーズに対応するため、大学、研究機関、産業支援機関など、県内外の関係機関との連携を推進する。

(2) 全体的な計画の進行状況

第4期中期計画期間の初年度となる令和3年度は、高い満足度の得られる技術支援サービスを基本に、研究開発、研究成果の技術移転、人材育成等を積極的に推進することにより、東日本大震災津波や相次ぐ自然災害等からの復興、地域産業の活性化、企業等の付加価値向上などの県政課題の解決に向けて、地域企業等を技術面から支援することに取り組みました。

その結果、令和3年度評価対象となる29項目中26項目において「計画どおりに進んでいる（A評価以上）」との自己評価を行うことができました（表1）。

また、令和3年度計画において指標設定した25項目について、全項目で目標を達成できました（表2）。

表1 評価項目の自己評価状況

評価区分	項目数	構成比
A A	0	0%
A	26	90%
B	3	10%
C	0	0%
D	0	0%
計	29	100%

表2 指標の達成状況

	項目	単位	R3 目標	R3 実績	実績/目標	
1	復興支援	重点支援企業数	社	10	10	100%
2	企業活動への技術支援	依頼試験・設備機器貸出件数	件	7,500	7,976	106%
3	技術相談	企業訪問数	件	350	350	100%
4		技術相談件数	件	3,000	3,578	119%
5		利用企業の満足度	%	80	95	+15p
6		相談解決度	%	80	98	+18p
7	依頼試験	利用企業の満足度	%	80	96	+16p
8	設備機器貸出	利用企業の満足度	%	80	99	+19p
9	戦略的な研究開発	外部資金採択件数	件	3	4	133%
10		成果報告件数	件	90	99	110%
11		うち外部での報告	件	50	58	116%
12		研究テーマ数	件	50	66	132%
13	共同研究	共同研究企業満足度	%	80	91	+11p
14		新規共同研究企業数	件	3	6	200%
15	技術シーズ創生研究	成果展開研究テーマ数	件	10	15	150%
16	研究成果の事業化支援	技術移転件数	件	30	41	137%
17		事業化支援件数	件	5	5	100%
18	知的財産	知的財産創出件数	件	8	8	100%
19	ものづくり産業、地場産業への支援	共同研究件数	件	17	20	118%
20	産業人材の育成	講習会・研究会開催件数	件	40	72	180%
21		技術人材受入研修数	件	15	24	160%
22		講習会・研究会満足度	%	80	95	+15p
23		研究開発型人材育成利用企業満足度	%	80	100	+20p
24	連携・協働の推進	新規連携取組件数	件	3	3	100%
25	情報発信の推進	HPアクセス数	回	43,000	47,942	111%

※ 網掛け部分は中期計画において目標設定されているものを示す。表中の「p」はポイントの意味。

(3) 全体評価に規定する事項

ア 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

① 震災復興への支援

東日本大震災津波の発災から10年が経過し、被災企業は復旧・事業再開から本格復興へと新たなステージへの移行が進んでいる反面、地域や業種により状況に差が見られることから、企業訪問により個々の企業のニーズを調査しながら生産現場での技術支援に力を入れました。また、甚大な被害をもたらした平成28年台風10号及び令和元年東日本台風からの復興支援についても同様の取組を行いました。

復興の新たなステージへ移行する企業等に対し、センターの持つ技術資源を活用しながら、技術開発・商品開発・品質改良等の支援に重点的に取り組みました。その推進に当たっては、引き続き、センター内に設置した復興支援推進本部を中心とした体制を継続するとともに、関係機関に対してセンターの支援制度を周知し、情報共有しながら取組を進めました。センターの復興支援活動を示す指標として、被災12市町村における重点支援企業数を設定し、令和3年度は目標10社に対して実績10社と目標を達成することができました。

② 企業活動への技術支援

企業訪問、技術相談、依頼試験等・設備機器貸出については、いずれも目標件数を上回ることができました。また、前年の顧客満足度調査の結果等に基づく改善に努めた結果、満足度や相談解決度についても、数値目標を達成することができました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に対応した企業支援を実施するために整備したオンライン会議室を運用し、企業との技術相談の他、セミナー開催、リモートでの会議参加や学会発表、成果報告会など様々な場面で活用しました。

③ 戦略的な研究開発

研究開発については、研究テーマ数、外部資金採択件数、成果報告件数、外部での成果報告件数、共同研究企業満足度、新規共同研究企業数、知的財産創出件数、共同研究件数、事業化支援件数で目標を達成しました。

県政課題等解決のための研究としては、ものづくりイノベーション技術に係る研究開発、デザイン活用に関するモデルの社会実装とインフラ構築、新有望品種の醸造試験、熱可塑性樹脂複合材料の複合積層造形金型による製造方法の確立、超短パルスレーザーによる表面加工と選択めっきを用いた配線パターンニング技術、東北地域企業へのIoT導入強化に関する研究をテーマに取り組みしました。

産学官共同研究プロジェクトとしては、医療・バイオ用分析装置前処理システムの開発、小規模試験醸造による産地特性の解明、3次元配線技術開発などに取り組みました。

企業ニーズに対応した共同研究及び受託研究としては、20テーマを実施しました。

技術シーズ創生のための研究としては、新たに技術シーズ創生・発展研究を開始し、将来的に県内企業への寄与が見込まれる研究や調査研究を行う「可能性調査研究」、所内審査によりテーマを決定し競争的外部資金の獲得等に向けステップアップを図る「発展研究」の各研究を実施しました。可能性調査研究では、画像処理等を活用した水稻生育状況確認の検討、高温用圧力センサ素子の圧力応答特性評価、岩手県内の非鉄鋳物製造業におけるカーボンニュートラルへの取り組みと課題、漆の紫外線硬化に関する調査研究、新規麹菌の生産する酵素の性質の検討、県産素材を活用した新規燻製チップ材料に関する調査など28テーマを実施しました。発展研究では、AIスティックによる機械学習システムの構築と工作機械の工具損傷診断システムへの応用、バイオプラスチック用補強繊維に適用する木材パルプ表面の界面接着性向上に関する研究、チタン系金属積層造形体のレーザー溶接技術に関する研究、デザイン経営の推進に関する実証研究、酵母育種のための新しい選択圧の開発の5テーマを実施しました。

研究成果の事業化支援としては、成果発表会や講習会の開催、研究成果集や技術情報の発行、プレスリリースや学会発表を通じて、成果の技術移転に取り組みしました。

知的財産の創造・保護・活用では、特許出願6件、商標出願2件の合計8件で年度計画の目標を達成しました。

④ ものづくり産業及び地場産業への支援

企業との共同研究数は目標17件に対し、実績は20件となり、目標を達成しました。

ものづくり産業への支援としては、技術の高度化に関する支援として、ものづくりイノベーションセンター（次世代ものづくりラボ・EMC※評価ラボ）を活用し、県内企業のものづくり革新対応への取組を支援しました。また、自動車・半導体・地域クラスターに係る県内産学官による協議会活動に参加し、参入及び取引拡大を目指す企業の取組を支援しました。新産業創出に向けた支援としては、高エネルギー加速器研究機構と連携した加速器関連機器の技術習得推進、加速器関連産業研究会に参加し企業の技術開発や課題解決の支援、ヘルステック・イノベーション・ハブ（HIH）を管理・運営等の支援を行いました。

地場産業への支援としては、食産業に対する支援として県が進めるワイン産業振興の取組と連携した技術支援及び人材育成、イサダやナマコの機能性成分に着目した素材化技術の開発、各食品企業での生産工程改善支援、県内企業等との連携による日本酒や酒米の高品質化推進等の支援を行いました。伝統産業、漆産業に対する支援としては、デザインラボの運営によるデザイン活用的高度化に向けた支援、漆関連インターンシップ企画運営業務を実施、輸出用清酒のパッケージング技術開発等の支援を行いました。

※EMC (Electromagnetic Compatibility;電磁両立性)

⑤ 産業人材の育成

講習会参加者の満足度は、目標80%に対して95%、研究開発型人材育成利用企業の満足度は目標80%に対して100%となり、目標を達成しました。

企業人材の技術高度化支援では、最新の研究や技術動向等の紹介、分析・測定の原理やデータ活用等に係る講習会・セミナーを開催したほか、企業から技術者を受け入れ、それぞれの企業が抱える技術課題解決を通じ育成を図る研究開発型人材育成支援事業を行いました。

次代を担う産業人材の育成では、ものづくりイノベーションを担う技術者の育成として、技術者向けセミナー、普及啓発セミナー、実技セミナー、共同研究を実施し、企業の技術人材育成を支援しました。また、漆関連インターンシップ企画運営業務や漆産業の体験実習を実施しました。

⑥ 連携・協働の推進

県内外機関との新規連携取組件数は目標3件に対して実績3件、外部資金新規採択件数は目標3件に対して実績4件となり、それぞれ目標を達成しました。

関係機関との連携交流としては、外部機関との連携窓口である連携推進室が中心となり、産総研イノベーションコーディネータの委嘱を受けるなど関係機関との連携交流を推進し、全国・東北公設試との連携交流では技術連携推進会議参加や北東北3県共同研究、中東北3県共同研究等に取り組みました。

⑦ 情報発信の推進

ホームページアクセス数は目標43,000回に対し実績は47,942回となり、目標を達成しました。

広報資料として、技術情報誌・最新成果集などの印刷物を発行しました。また、プレスリリースの実施、成果発表会の開催、ホームページへの新着情報掲載、デザインラボFacebook（SNS）への新着情報掲載などの発信を行いました。さらに、公式Youtubeチャンネルを開設し、センター設備紹介等のコンテンツ配信を開始するなど、SNSや動画メディアを通じた情報発信の強化に取り組みました。

イ 業務運営の改善及び効率化に関する事項

① 組織運営の改善

毎月、内部統制推進委員会を開催し、コンプライアンス訓示を行うなど、内部統制システムの強化を進めました。

また、業務等改善推進チームによる業務等改善活動を実施し、職員から寄せられた改善提案を検討した結果を業務改善につなげ、経営資源の効率化及び合理化を推進しました。

② 効果的・合理的な事務処理

部内業務執行体制の弾力的な運用による業務効率化や超過勤務の事前命令徹底等、超過勤務縮減の取組を継続しましたが、外部資金事業に係る事務や新型コロナウイルス感染症対策に係る業務の増により、前年度より微増となりました。

③ 職員の意欲向上と能力開発

研究業務や管理業務を通じ高い評価の事績を挙げた職員等を対象に、理事長大賞等の表彰を行い、職員のモチベーション向上に努めました。業績顕著者（1名）及び永年勤続者（2名）は、知事から表彰を受けました。職員の研究・事業活動について、文部科学大臣表彰科学技術賞（1件）、（公社）日本鑄造工学会日下賞（1件）、同技術賞（1件）及び東北地方発明表彰文部科学大臣賞（1件）が授与されましたほか、産業技術連携推進会議から感謝状（1件）が授与されました。

また、公設試職員としての能力向上や企業支援の業務遂行能力向上のため各種研修に毎年職員を派遣してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中小企業大学校が開催する研修に1名の職員を派遣するとともに、職員自身の希望に基づく公募型職員研修に4名の派遣となりました。職員が自発的・積極的な受講に努め、専門技術や高度な解析手法等を習得し、支援業務や研究業務等への活用が図られるとともに、職員のモチベーション向上にも寄与しています。

④ 環境・安全衛生マネジメント及び職場環境の充実

環境マネジメントについては、「岩手県工業技術センターエコマネジメントシステム」の運用に努めた結果、電力使用量、プロパンガス使用量、水道使用量、産業廃棄物排出量は、管理指標を下回りましたが、重油使用量は、管理指標を上回りました。

安全衛生マネジメントでは、安全かつ適法な労働環境の整備を行うため、労働安全分野の資格取得や講習受講を計画的に進めました。労働災害防止に向けた取組の一環として、職場の安全相互診断の実施等により、労働災害の発生防止に取り組みました。このほか、コンプライアンス訓示における交通法規遵守・交通安全に対する意識の醸成に努め、交通事故の発生抑止に取り組みました。

また、令和3年度から計画期間がスタートした「次世代育成支援及び女性活躍推進のための一般事業主行動計画」に基づき、職員が仕事と生活の調和を図り働きやすい職場環境の整備に努めました。

また、県の「いわて女性活躍認定企業等（ステップ2）」へのステップアップ認定も受けています（認定期間：平成3年7月～令和6年7月）。

⑤ コンプライアンスの徹底及び社会貢献活動への積極的取組

職員のコンプライアンス意識の醸成を図るため、常勤役員4名が毎月交替で訓示を行うなど、コンプライアンス全般に係る取組の徹底を図っています。

サイバーセキュリティ対策研修会や情報システム推進委員会の開催などにより、情報セキュリティ対策の確認と強化を推進しました。

また、センターが独自に整備している公的研究費の不正使用防止ルールに基づき、全職員に対し意識啓発を行いました。

社会貢献活動については、一般公開が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になりましたが、中高生向け職業講話への講師派遣や中高生・大学生のインターンシップの受入要望等に対応しました。

ウ 財務内容の改善に関する事項

企業訪問等を通じて県内企業に対するセンターの利用促進を図りましたが、使用料・手数料等の自己収入額（ヘルステック・イノベーション・ハブを除く）は、目標額を下回りました。

なお、自己収入額の総額は、目標額を上回ることができ、事業の効率化や優先度に配慮した予算執行に努めた結果、剰余金を計上することができました。

エ その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

試験研究機器の整備・活用については、「(公財) J K A機械振興補助事業」による雷サーズ試験器及び熱溶解積層法3Dプリンターや「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助事業」による5軸NC加工機用CAMシステム及びパッケージ試作システムなどを整備するとともに、既存の試験研究機器の定期保守点検など適切な維持管理にも努めました。

施設・設備の計画的な修繕・整備については、施設設備修繕計画に基づき必要な修繕を行いました。

人事に関する計画については、技術部門における中長期の人材確保のため、研究職員2名を選考採用により決定しました。

また、総務事務部門や技術部門においては、高い専門性を有する県OB職員を継続して任用するなど、人員・人件費の適切な管理や効率的な人的資源の配分を行ったほか、中期計画推進に向けた助言等を受けるため顧問を委嘱しました。

3 財務情報

(1) 財務諸表

別表2のとおり。

(2) 予算及び決算の概要

別表3のとおり。

(3) 設備等の状況

別表4のとおり。

(4) 経費の削減及び効率化に関する目標及びその達成状況

ア 業務経費（試験研究、企業支援等）

目 標	対前年度比△1.5%以上
達成率	100%

イ 一般管理費（運営管理、庁舎管理等）

目 標	対前年度比△1.0%以上
達成率	100%

別表1 役員状況（令和4年3月31日現在）

氏名	木村 卓也	役職	理事長
任期	令和4年3月まで		
経歴	岩手県職員（昭和55年4月～平成29年3月） 現職（平成29年6月～）		

氏名	岩渕 謙悦	役職	副理事長（経営企画統括部長兼務）
任期	令和4年3月まで		
経歴	岩手県職員（昭和57年4月～平成2年3月） 現職（令和2年4月～）		

氏名	鎌田 公一	役職	理事（ものづくり技術統括部長兼務）
任期	令和4年3月まで		
経歴	岩手県職員（昭和59年4月～平成21年3月） （地独）岩手県工業技術センター職員（平成21年4月～） 〃 理事兼務（平成27年4月～）		

氏名	小浜 恵子	役職	理事（地域産業技術統括部長兼務）
任期	令和4年3月まで		
経歴	三菱油化㈱（現：三菱ケミカル㈱）勤務（昭和59年4月～平成6年4月） 岩手県職員（平成6年5月～平成18年3月） （地独）岩手県工業技術センター職員（平成18年4月～） 〃 理事兼務（平成27年4月～）		

氏名	谷村 久興	役職	理事（非常勤）
任期	令和4年3月まで		
経歴	谷村電気精機㈱ 代表取締役社長（平成6年3月～平成10年5月） 〃 代表取締役会長（平成10年6月～令和3年6月） 〃 相談役（令和3年6月～） 現職（平成26年4月～）		

氏名	松岡 俊太郎	役職	理事（非常勤）
任期	令和4年3月まで		
経歴	両磐酒造㈱ 代表取締役社長（平成9年11月～） 現職（令和3年5月～）		

氏名	菅原 光政	役職	監事（非常勤）
任期	令和4年3月末日を含む事業年度に係る地方独立行政法人法第15条第2項に規定する財務諸表承認日まで		
経歴	岩手県立大学ソフトウェア情報学部教授（平成10年4月～平成27年3月） 現職（平成26年4月～）		

氏名	丹代 一志	役職	監事（非常勤）
任期	令和4年3月末日を含む事業年度に係る地方独立行政法人法第15条第2項に規定する財務諸表承認日まで		
経歴	税理士 現職（平成26年4月～）		

貸借対照表

(令和4年3月31日現在)

(単位:円)

資 産 の 部			負債及び純資産の部		
科 目			科 目		
(資産の部)			(負債の部)		
I 固定資産			I 固定負債		
1 有形固定資産			資産見返負債		
土地	2,173,000,000	2,173,000,000	資産見返運営費交付金	40,481,396	
建物	4,003,869,839		資産見返補助金等	2,152,485,511	
減価償却累計額	△ 1,325,901,358	2,677,968,481	資産見返寄附金	8	
建物附属設備	1,269,980,264		資産見返物品受贈額	61	
減価償却累計額	△ 586,357,050	683,623,214	資産見返目的積立金	13,200,052	2,206,167,028
構築物	61,034,168		引当金		
減価償却累計額	△ 15,551,923	45,482,245	修繕引当金		17,700,000
機械装置	1,085,778,435		固定負債合計		2,223,867,028
減価償却累計額	△ 973,958,105	111,820,330			
工具器具備品	1,336,591,467		II 流動負債		
減価償却累計額	△ 1,232,581,836	104,009,631	預り補助金等		3,330,460
車両運搬具	13,433,918		預り金		1,949,654
減価償却累計額	△ 13,433,913	5	未払金		148,806,450
有形固定資産合計		5,795,903,906	前受収益		4,704,140
			未払消費税等		261,200
2 無形固定資産			流動負債合計		159,051,904
ソフトウェア		1			
電話加入権		18,000	負債合計		2,382,918,932
水道施設利用権		998,140			
無形固定資産合計		1,016,141	(純資産の部)		
			I 資本金		
3 投資その他の資産			地方公共団体出資金	4,969,586,000	
長期前払費用		6,691,938	資本金合計		4,969,586,000
固定資産合計		5,803,611,985	II 資本剰余金		
			施設費	180,002,068	
II 流動資産			目的積立金	76,936,149	
現金及び預金		225,562,130	譲与	59,284,568	
未収入金	90,094,691		その他の資本剰余金	36,000	
貸倒引当金	△ 150,943	89,943,748	損益外固定資産除却額	△ 1,152,054	
前払費用		2,230,646	損益外減価償却累計額	△ 1,695,006,716	
			損益外減損損失累計額	△ 18,000	
流動資産合計		317,736,524	資本剰余金合計		△ 1,379,917,985
			III 利益剰余金		
			前中期目標期間繰越積立金	122,356,210	
			前中期目標期間繰越積立金(ハブ)	2,117,529	
			目的積立金	0	
			目的積立金(ハブ)	0	
			積立金	0	
			当期末処分利益	24,287,823	
			(うち当期総利益)	(24,287,823)	
			利益剰余金合計		148,761,562
			純資産合計		3,738,429,577
資産合計		6,121,348,509	負債純資産合計		6,121,348,509

損益計算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

経常費用		
業務費		
試験研究費	292,215,048	
技術支援費	20,893,352	
内部管理費	2,907,035	
役員人件費	19,330,503	
職員人件費	596,805,426	
受託研究費	94,459,671	1,026,611,035
管理運営費		262,093,933
雑損		0
経常費用合計		1,288,704,968
経常収益		
運営費交付金収益		837,907,000
手数料収入		
依頼試験手数料	18,102,000	18,102,000
使用料収入		
電波暗室使用料	15,913,400	
機械装置貸出料	20,214,742	
会議室使用料	214,076	
共同研究員室使用料	0	
ヘルステック・イノベーション・ハブ使用料	56,674,960	93,017,178
受託研究収入		
国又は地方公共団体	38,666,765	38,666,765
共同研究収入		
その他の団体	7,190,000	7,190,000
受託事業収入		
国又は地方公共団体	3,392,438	3,392,438
補助金等収益		47,673,168
寄附金収益		480,918
資産見返負債戻入		
資産見返運営費交付金戻入	18,892,463	
資産見返補助金等戻入	196,630,971	
資産見返目的積立金戻入	3,036,610	218,560,044
財務収益		
受取利息		3,780
雑収益		
財産収入	655,545	
その他の雑益	19,845,288	20,500,833
経常収益合計		1,285,494,124
経常利益		△ 3,210,844
臨時利益		
貸倒引当金戻入益		13,230
当期純利益		△ 3,197,614
目的積立金取崩額		27,485,437
当期総利益		24,287,823

キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 219,362,798
人件費支出	△ 531,702,531
その他の業務支出	△ 216,232,876
運営費交付金収入	850,741,000
依頼試験手数料収入	18,639,609
施設使用等収入	93,680,827
受託研究収入	59,121,945
共同研究収入	7,190,000
受託事業収入	1,140,700
その他収入	20,542,368
補助金等収入	104,139,333
寄附金収入	0
小計	187,897,577
利息及び配当金の受取額	3,780
設立団体納付金の支払額	△ 8,291,400
業務活動によるキャッシュ・フロー	179,609,957
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産取得による支出	△ 106,948,915
その他の投資支出	0
固定資産の売却による収入	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 106,948,915
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
	0
IV 資金に係る換算差額	
	0
V 資金増加額	72,661,042
VI 資金期首残高	152,901,088
VII 資金期末残高	225,562,130

利益の処分に関する書類

(単位:円)

I 当期未処分利益	24,287,823	
当期総利益	24,287,823	
II 利益処分額		
積立金	1,324,071	
地方独立行政法人法第40条第3項により設立団体の長の承認を受けた額		
企業支援充実強化並びに組織運営及び施設整備改善目的積立金	<u>22,963,752</u>	<u>24,287,823</u>

行政サービス実施コスト計算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

I 業務費用			
(1) 損益計算書上の費用			
業務費	1,026,611,035		
管理運営費	262,093,933	1,288,704,968	
(2) (控除) 自己収入等			
手数料収入	△ 18,102,000		
使用料収入	△ 93,017,178		
受託研究収入	△ 38,666,765		
共同研究収入	△ 7,190,000		
受託事業収入	△ 3,392,438		
寄附金収益	△ 480,918		
財務収益	△ 3,780		
雑収益	△ 20,500,833	△ 181,353,912	
業務費用合計			1,107,351,056
II 損益外減価償却相当額			
			90,693,961
III 引当外賞与増加見積額			
			△ 1,638,456
IV 引当外退職給付増加見積額			
			△ 86,548,091
V 機会費用			
国又は地方公共団体財産の無償又は減額された			
使用料による貸借取引の機会費用		0	
地方公共団体出資の機会費用		0	0
VI 行政サービス実施コスト			
			<u>1,109,858,470</u>

注 記 事 項

I 重要な会計方針

1 運営費交付金収益の計上基準

期間進行基準を採用しています。

なお、退職一時金については費用進行基準を採用しています。

2 減価償却の会計処理方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しています。

耐用年数については、法人税法上の耐用年数を基準とし、県から承継した固定資産については見積耐用年数により、受託研究等収入により購入した償却資産については、使用予定期間を耐用年数としています。なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりです。

建物	3～38年
構築物	10～60年
機械装置	1～12年
工具器具備品	3～10年
車両運搬具	4～6年

また、特定の償却資産（地方独立行政法人会計基準第 85）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示しています。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（3年）に基づいています。

3 賞与に係る引当金及び見積額の計上基準

賞与については、運営費交付金により財源措置がなされているため、賞与に係る引当金は計上していません。

なお、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与増加見積額は、地方独立行政法人会計基準第 24 に基づき当事業年度末の引当外賞与見積額から前事業年度末の同見積額を控除した額を計上しています。

4 退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

退職一時金については、運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上していません。

なお、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、地方独立行政法人会計基準第 24 に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上しています。

5 貸倒引当金の計上基準

将来の貸倒れによる損失に備えるため、計上しています。

- 6 行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法
地方公共団体出資等の機会費用の計算に使用した利率
令和元年5月29日付け総務省事務連絡「地方独立行政法人における行政サービス実施コスト計算書の機会費用の取扱いについて（留意事項）」（総務省自治行政局行政経営支援室、総務省自治財政局公営企業課、総務省自治財政局財務調査課）に基づき、0%で計算しております。
- 7 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式です。

II 「貸借対照表」注記
運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額 370,393,036 円

III 「キャッシュ・フロー計算書」注記

1 資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	225,562,130 円
資金期末残高	225,562,130 円

- 2 重要な非資金取引
該当する事項はありません。

IV 「行政サービス実施コスト計算書」注記
該当する事項はありません。

V 重要な債務負担行為
該当する事項はありません。

VI 重要な後発事象
該当する事項はありません。

VII 金融商品に関する注記

1 金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金に限定しています。

2 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：円)

	貸借対照表上計上額	時価	差額
現金及び預金	225,562,130	225,562,130	0

(注) 金融商品の時価の算定方法

現金及び預金は短時間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を記載しています。

附 属 明 細 書

固定資産の取得及び処分並びに減価償却費の明細表(「第85 特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。)の明細

(単位:円)

資産の種類	勘定科目	期首残高	当期取得額①+②	①購入	②寄附等	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		差引当期末残高
									当期償却額	
有形固定資産 (特定償却資産)	建物	2,421,148,113	0	0	0	0	2,421,148,113	1,204,471,248	75,218,448	1,216,676,865
	建物附属設備	581,411,450	49,148,000	49,148,000	0	0	630,559,450	474,983,545	13,361,638	155,575,905
	構築物	61,034,168	0	0	0	0	61,034,168	15,551,923	2,113,875	45,482,245
	小計	3,063,593,731	49,148,000	49,148,000	0	0	3,112,741,731	1,695,006,716	90,693,961	1,417,735,015
有形固定資産 (特定償却資産以外)	建物	1,582,721,726	0	0	0	0	1,582,721,726	121,430,110	41,650,571	1,461,291,616
	建物附属設備	639,420,814	0	0	0	0	639,420,814	111,373,505	42,987,680	528,047,309
	構築物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機械装置	1,074,998,435	10,780,000	10,780,000	0	0	1,085,778,435	973,958,105	99,492,613	111,820,330
	工具器具備品	1,290,184,667	46,406,800	46,406,800	0	0	1,336,591,467	1,232,581,836	34,226,040	104,009,631
	車両運搬具	13,433,918	0	0	0	0	13,433,918	13,433,913	0	5
	小計	4,600,759,560	57,186,800	57,186,800	0	0	4,657,946,360	2,452,777,469	218,356,904	2,205,168,891
非償却資産	土地	2,173,000,000	0	0	0	0	2,173,000,000	0	0	2,173,000,000
有形固定資産合計	土地	2,173,000,000	0	0	0	0	2,173,000,000	0	0	2,173,000,000
	建物	4,003,869,839	0	0	0	0	4,003,869,839	1,325,901,358	116,869,019	2,677,968,481
	建物附属設備	1,220,832,264	49,148,000	49,148,000	0	0	1,269,980,264	586,357,050	56,349,318	683,623,214
	構築物	61,034,168	0	0	0	0	61,034,168	15,551,923	2,113,875	45,482,245
	機械装置	1,074,998,435	10,780,000	10,780,000	0	0	1,085,778,435	973,958,105	99,492,613	111,820,330
	工具器具備品	1,290,184,667	46,406,800	46,406,800	0	0	1,336,591,467	1,232,581,836	34,226,040	104,009,631
	車両運搬具	13,433,918	0	0	0	0	13,433,918	13,433,913	0	5
	合計	9,837,353,291	106,334,800	106,334,800	0	0	9,943,688,091	4,147,784,185	309,050,865	5,795,903,906
無形固定資産	電話加入権	18,000	0	0	0	0	18,000	0	0	18,000
	水道施設利用権	1,151,700	0	0	0	0	1,151,700	153,560	76,780	998,140
	ソフトウェア	3,590,010	0	0	0	0	3,590,010	3,590,009	126,360	1
	合計	4,759,710	0	0	0	0	4,759,710	3,743,569	203,140	1,016,141

2 たな卸資産の明細
該当事項はありません。

3 引当金の明細
未収入金に対する貸倒引当金の明細

(単位:円)

区 分	未収入金等の残高			貸倒引当金の残高			摘 要
	期首残高	当期増減額	期末残高	期首残高	当期増減額	期末残高	
貸倒引当金	89,403,831	690,860	90,094,691	164,173	△13,230	150,943	
計	89,403,831	690,860	90,094,691	164,173	△13,230	150,943	

(注) 貸倒引当金は法定繰入率を参考とし、使用料収益、手数料収益等に係る未収入金計上額(国及び地方公共団体関係分を除く。)の 6/1000 を計上したものです。

4 資本金及び資本剰余金の明細

(単位:円)

区 分		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘 要
資本金	地方公共団体出資金	4,969,586,000	0	0	4,969,586,000	県からの現物出資財産
	計	4,969,586,000	0	0	4,969,586,000	
資本剰余金	県からの譲与	59,320,568	0	0	59,320,568	
	施設費	142,778,068	37,224,000	0	180,002,068	※1
	目的積立金	66,097,149	10,839,000	0	76,936,149	※2
	損益外固定資産除却額	△1,152,054	0	0	△1,152,054	
	計	267,043,731	48,063,000	0	315,106,731	
	損益外減価償却累計額	△1,604,312,755	0	90,693,961	△1,695,006,716	
	損益外減損損失累計額	△18,000	0	0	△18,000	
	計	△1,604,330,755	0	90,693,961	△1,695,024,716	
差 引 計	△1,337,287,024	48,063,000	90,693,961	△1,379,917,985		

※1 施設設備整備事業費補助金による固定資産の取得相当額を計上したものです。

※2 目的積立金取崩による固定資産の取得相当額を計上したものです。

5 積立金の明細及び目的積立金の取崩しの明細

① 積立金の明細

(単位:円)

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘 要
地方独立行政法人法第 40 条第 1 項積立金	5,397,090	2,894,310	8,291,400	0	※1
地方独立行政法人法第 40 条第 3 項積立金	133,981,988	37,140,188	171,122,176	0	※1
地方独立行政法人法第 40 条第 4 項積立金	0	171,122,176	46,648,437	124,473,739	

※1 当期増加額は、令和2年度の利益の処分に伴って計上したものです。

② 目的積立金の取崩しの明細

(単位:円)

区 分		金 額	摘 要
目的積立金取崩し	地方独立行政法人法第40条第4項積立金	27,485,437	地方独立行政法人法第26条第2項第6号の剰余金の使途に基づく費用発生による
その他	地方独立行政法人法第40条第4項積立金	19,163,000	地方独立行政法人法第26条第2項第6号の剰余金の使途に基づく固定資産の取得による
計		46,648,437	

6 運営費交付金債務及び運営費交付金収益の明細

① 運営費交付金債務

(単位:円)

交付年度	期首残高	交付金 当期交付額	当期振替額				期末残高
			運営費交付金 収益	資産見返 運営費交付金	資本剰余金	小 計	
令和3年度	0	850,741,000	837,907,000	12,834,000	0	850,741,000	0
計	0	850,741,000	837,907,000	12,834,000	0	850,741,000	0

② 運営費交付金収益

(単位:円)

業務等区分	令和3年度交付分	摘 要
期間進行基準	736,512,738	
費用進行基準	101,394,262	退職給付
計	837,907,000	

7 役員及び職員の給与の明細

(単位:円、人)

区 分		報酬又は給与		退職給付	
		支給額	支給人員	支給額	支給人員
役 員	常 勤	14,167,662	2.0	0	0
	非常勤	2,126,000	5.0	0	0
	計	16,293,662	7.0	0	0
職 員	常 勤	408,418,306	60.0	101,394,262	5.0
	非常勤	0	0	0	0
	計	408,418,306	60.0	101,394,262	5.0
合 計	常 勤	422,585,968	63.0	101,394,262	5.0
	非常勤	2,126,000	5.0	0	0
	計	424,711,968	68.0	101,394,262	5.0

(注) 1 役員に対する報酬等の基準及び職員に対する給与及び退職手当の支給基準の概要

地方独立行政法人岩手県工業技術センター役員の給与等の支給に関する規程、地方独立行政法人岩手県工業技術センター職員給与規程及び地方独立行政法人岩手県工業技術センター職員退職手当規程に基づき支給しています。

2 支給人員は、年間平均支給人員を記載しています。

3 本表の支給額合計には、法定福利費は含まれていません。

また、非常勤役員には顧問を含み、育児休業補充及び欠員補充による会計年度任用職員の報酬は含まれていません。

8 上記以外の主な資産、負債、費用及び収益の明細

① 現金及び預金の明細

(単位:円)

区分	残高	摘要
現金	203,652	現金及び小口現金
普通預金	155,358,478	
定期預金	70,000,000	
合計	225,562,130	

② 未収入金の明細

(単位:円)

相手方	残高	摘要
東北経済産業局	43,155,550	
岩手県	21,781,984	
全国中小企業団体中央会	16,636,878	
その他	8,520,279	92件
合計	90,094,691	

③ 資産見返物品受贈額の明細

(単位:円)

種類	期首残高	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘要
		当期受入	その他	当期支出	その他		
機械装置	58	0	0	0	0	58	
工具器具備品	3	0	0	0	0	3	
合計	61	0	0	0	0	61	

④ 未払金の明細

(単位:円)

相手方	残高	摘要
令和4年3月 退職手当(未払計上)	102,508,415	
東北電力株式会社	6,782,744	
セコム株式会社	5,697,450	
その他	33,817,841	93件
合計	148,806,450	

令和3年度 決算報告書

地方独立行政法人岩手県工業技術センター
(単位:円)

区分	当初予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	772,613,000	850,741,000	78,128,000	注1
補助金	65,541,000	76,196,418	10,655,418	注2
自己収入	130,767,000	131,623,791	856,791	注3
受託研究等事業収入	31,127,000	93,978,753	62,851,753	注4
寄附金収入	0	480,918	480,918	注5
目的積立金	30,000,000	38,048,437	8,048,437	注6
目的積立金(令和2年度繰越分)	0	8,600,000	8,600,000	注7
計	1,030,048,000	1,199,669,317	169,621,317	
支出				
運営費事業	959,321,000	1,027,096,053	67,775,053	
人件費	539,332,000	616,135,929	76,803,929	注8
業務経費	176,775,000	172,336,357	△ 4,438,643	注9
一般管理費	243,214,000	238,623,767	△ 4,590,233	注10
施設設備整備費	39,600,000	37,224,000	△ 2,376,000	注11
受託事業等	31,127,000	93,978,753	62,851,753	注12
寄附金事業	0	480,918	480,918	注13
計	1,030,048,000	1,158,779,724	128,731,724	
収入-支出	0	40,889,593	40,889,593	注14

予算と決算の差異について

- 注1 決算見込額を試算した結果、人件費所要見込額が増加したため、補正を行ったものです。
- 注2 新たにもものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金の交付決定があったことによるものです。
- 注3 手数料収入が見込みより減少したことによるものです。
- 注4 受託研究等事業が見込みより増加したことによるものです。
- 注5 公益財団法人天田財団から寄附があったものです。
- 注6 施設設備修繕等が見込みより増加したこと等によるものです。
- 注7 令和2年度引当予定の修繕引当金繰入を繰り越したものです。
- 注8 退職給付費用5名分の支出等があったことによるものです。
- 注9 新型コロナウイルス感染症の影響もあって実績が予算を下回ったことによるものです。
- 注10 新型コロナウイルス感染症の影響もあって実績が予算を下回ったことによるものです。
- 注11 岩手県施設整備費補助金について、実績により減額の変更交付決定があったことによるものです。
- 注12 受託研究等事業収入の増加に伴う支出増加により、予算額に比して決算額が増加したものです。
- 注13 公益財団法人天田財団から寄附があったことによる事業の実施によるものです。
- 注14 新型コロナウイルス感染症の影響等もあり、業務経費及び一般管理費が減少した等により、剰余金が生じたものです。

別表4 設備等の状況

令和4年3月31日現在

整理 No	機 器 名	仕様・規格	担 当 部	機 器 の 用 途 (概 要)
1	3m法電波暗室		電子情報システム部	電子機器の電磁波ノイズを測定する
2	大型電波暗室		電子情報システム部	電子機器の電磁波ノイズを測定する
3	EMIシールド室	室内有効寸法:奥行8m×幅4m×高さ2.5m	電子情報システム部	電子機器の電磁波ノイズを測定する
4	EMSシールド室	室内有効寸法:奥行8m×幅4m×高さ2.5m	電子情報システム部	電子機器の電磁波耐性を評価する
5	車載シールド室	室内有効寸法:奥行8m×幅4m×高さ2.5m	電子情報システム部	車載電装品の電磁波耐性を評価する
6	多目的電波暗室		電子情報システム部	電子機器の電磁波耐性を評価する
7	BCI/TWCイミュニティ試験器	ISO11452-4:2011, E/ECE-R10(BCI), 2004/104/EC(BCI)	電子情報システム部	車載電装品の耐ノイズ性能を確認する試験
8	CNCパイプベンダー	日進精機製 NPB-030	電子情報システム部	コンピュータ制御でパイプを三次元形状に曲げ加工する機器
9	MBE(分子線エピタキシー)装置	ユニバーサルシステムズ UMB-200型	電子情報システム部	半導体成膜装置(酸化亜鉛や金属酸化物の高品質成膜)
10	厚膜用簡易膜厚計	ミツトヨ MDH-25M	電子情報システム部	厚膜用簡易膜厚計(マイクロメーター)
11	インピーダンスアナライザ	アジレント4294A	電子情報システム部	電子部品のインピーダンス測定
12	大型管状炉A	光洋サーモシステム KTF-055N	電子情報システム部	主に半導体試料の熱酸化や不純物拡散をする装置
13	大型管状炉B	光洋サーモシステム KTF-055N	電子情報システム部	主に半導体試料の熱酸化や不純物拡散をする装置
14	大型管状炉C	光洋サーモシステム KTF-055N	電子情報システム部	主に半導体試料の熱酸化や不純物拡散をする装置
15	大型管状炉D	光洋サーモシステム KTF-055N	電子情報システム部	主に半導体試料の熱酸化や不純物拡散をする装置
16	オシロスコープ	アジレント DS06034A	電子情報システム部	時間領域の電子信号を測定する装置
17	雷サージ試験器	LSS-6330-B63	電子情報システム部	雷による異常電圧に対する電子機器の耐性評価(EN/IEC61000-4-5)
18	環境試験装置(低温恒温恒湿器)	エスベック製 PL-2KPH	電子情報システム部	温度/湿度を一定条件で与えることで耐久性を試験する
19	環境試験装置(熱衝撃試験機)	エスベック製 TSA-201S-W	電子情報システム部	低温と高温を繰り返し与えることで耐久性を試験する
20	気中パーティクルカウンター	ベックマン ハンドヘルドパーティクルカウンタ HHP3+	電子情報システム部	空気中にある塵、ホコリ、異物などをカウントする計測器
21	基板設計・加工システム	・イテック社製 OrCAD PCB Designer Professional With Pspice ・MITS社製 Auto Lab	電子情報システム部	電子回路図作成、回路シミュレーション、基板・配線設計及び基板加工
22	組込・画像処理開発装置	Matlab/Simulink 画像処理用照明(イマック製)	電子情報システム部	組込ソフトウェア及び画像処理のコード開発及びシミュレーション
23	グローブボックス (リチウムイオン二次電池などの (非水系)電池専用)	美和製作所 ガス循環精製装置付グローブボックス装置 DBO-2LKP(H)-TRY	電子情報システム部	・リチウムイオン二次電池(コイン型セル)の作製 ・禁水(アルゴン雰囲気)環境下での試料前処理 ・ボックス内は高純度アルゴンで充填 ・コンセント及び電子天秤が使用可
24	原子間力顕微鏡	SEIKO製 SPA-500	電子情報システム部	原子レベルでの表面形状を計測する機器
25	研磨機	マルトー ML-150SL	電子情報システム部	小型試料の鏡面研磨や電子顕微鏡観察用薄片の準備研磨をする装置
26	コイン電池カシメ機	タクミ技研 2032型コイン電池用	電子情報システム部	2032型コイン電池を手動でかきしめる試験研究用装置
27	コイン電池分解機	宝泉 2032型コイン電池用	電子情報システム部	2032型コイン電池を手動で分解する試験研究用装置
28	高感度分光測定システム	日本ローバーPIXIS-256E SP-2156	電子情報システム部	微弱な光の分光測定
29	高精度電気特性試験装置	HP4329A	電子情報システム部	電気部品の絶縁抵抗値を測定する装置(絶縁抵抗計)
30	小型管状炉	光洋サーモシステム KTF-035N特形	電子情報システム部	主に半導体試料の熱酸化や不純物拡散をする装置
31	小型真空蒸着装置	サンバック ED1250R	電子情報システム部	基板上に金属や酸化物の薄膜を堆積させる装置
32	小型真空定温乾燥器	アドバンテック DRV320DB	電子情報システム部	低真空中で加熱し乾燥を行う
33	小型卓上インバーター溶接機	日本アビオニクス NRW-IN4200/NT-IN4400/NA-I22/NA-142	電子情報システム部	薄板金属用のスポット溶接
34	小型卓上温調ロールプレス機	宝泉 120301型	電子情報システム部	塗布膜を加熱しながら、加圧する装置
35	コントロールコーター	松尾産業 K101	電子情報システム部	プリンティングデバイス用自動印刷機(パーコート、グラビア印刷)

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
36	紫外可視光照射装置	日本分光 IUV-25	電子情報システム部	紫外線～可視の単色光を試料に照射できる装置
37	振動試験装置	IMV株製 EM2505	電子情報システム部	一般的な振動試験、輸送振動試験を行う装置
38	振動試験用恒温恒湿槽	IMV株製 Eyn-4HA-7	電子情報システム部	複合環境試験を行う際、温湿度条件を付加する装置
39	水銀ブロー式C-V測定装置	堀場製作所 AP-2000	電子情報システム部	材料の静電容量対電圧依存性を測定する装置
40	スパッタ装置	アルバック MPS-3000-MC1C1LTS1	電子情報システム部	スパッタ法により各種金属や酸化物の薄膜を形成する装置
41	スピコータ	ミカサ MS-A100	電子情報システム部	フォトレジストの塗布
42	静電気放電試験装置（ESD試験装置）	株ノイズ研究所 ESS-2000AX	電子情報システム部	静電気に対する電子機器の耐性評価（EN/IEC61000-4-2 Ed. 2、ISO10605 Ed. 2対応）
43	赤外線加熱炉	アルバック理工 VHC-P610/39HD	電子情報システム部	小型の試料を高速に熱処理することができる装置
44	ソースメジャーユニット	ケースレーインスツルメンツ 6430	電子情報システム部	極微小な電流を計測する装置
45	ダイシングソー	東京精密 A-WD-10A	電子情報システム部	ウェハなどを切断・溝加工する装置
46	ダイボンダー	ウェストボンド 7200CR	電子情報システム部	電子デバイス等のチップをパッケージ上に張りつける装置
47	多機能環境測定器	日本シンテック NS-M4	電子情報システム部	温湿度、照度、騒音の計測
48	卓上小型電気炉	アズワン NHK-170	電子情報システム部	簡易的な試料の熱処理や高温下での物性測定に用いる装置
49	卓上シーラー	富士インパルス FT-230	電子情報システム部	ラミジップなどをシールする装置
50	卓上真空シーラー	MAGICVAC Alice V925S	電子情報システム部	真空パックする装置
51	超音波洗浄機	シャープ UT-105S	電子情報システム部	半導体の基板洗浄
52	電気炉	ヤマト科学 F0810	電子情報システム部	半導体プロセス用熱処理、焼成（RT～1,150℃、プログラム運転可、窒素ガス導入可）
53	電源周波数磁界イミュニティ試験器	IEC61000-4-8、ループ径：1.5m、Max:100A/m	電子情報システム部	IEC61000-4-8に規定される電子機器のEMC試験
54	電源伝導ノイズ印加試験システム	テクノサイエンスジャパン製	電子情報システム部	車載電装品のEMC試験及び電圧変動試験（ISO7637/ISO16750）
55	電源品質アナライザ	PW3198-90	電子情報システム部	電源品質の調査、消費電力測定
56	電子回路CAD	イテック社製 OrCAD PCB Designer Professional With Pspice	電子情報システム部	電子回路図作成、回路シミュレーション、基板・配線設計
57	電子回路解析装置（オシロスコープ）	日本テクトロニクス株製 DSA70604B	電子情報システム部	USB2.0、PCIexpress1.1コンプライアンステスト、波形観測、解析
58	電池充放電装置	北斗電工 HJ1001SD8	電子情報システム部	・電池（一次電池・二次電池）の充電及び放電性能の評価 ・リチウムイオン二次電池（コイン型電池）の充放電評価が可能
59	伝導EMI自動測定システム	株東陽テクニカ製 EMI自動測定システム	電子情報システム部	電気製品の電源線や通信線から発せられる不用ノイズの測定
60	電力測定装置	横河電機株製プレジジョンパワーアナライザ WT-3000他	電子情報システム部	電源高調波、フリッカ測定、IEC61000規格試験、電力測定
61	動的テストツール	DT-Win	電子情報システム部	ソフトウェア内のデータ値の推移と処理動作の記録（動的テスト）
62	ドクターブレード	宝泉 150mm, 150μm	電子情報システム部	手で塗布剤を厚さ150μmで塗布
63	ハイレジスタンスメータ	Agilent 4339B	電子情報システム部	試料の絶縁抵抗を測定する装置
64	半導体パラメータアナライザ	ケースレーインスツルメンツ 4200-SCS	電子情報システム部	半導体素子の電圧－電流特性や容量－電圧特性などを測定する装置
65	非接触抵抗率測定器	ナブソン NC-10	電子情報システム部	渦電流損による抵抗率を測定する装置
66	ファスト・トランジェント・パルス試験装置（EMC試験装置）	株ノイズ研究所 FNS-AX3-A16A	電子情報システム部	パルス信号に対する電子機器の耐性評価（EN/IEC61000-4-4 Ed. 2対応）
67	フォトマスク作製装置	アオバサイエンス PR-MR1	電子情報システム部	半導体微細加工用のフォトマスクを作製する装置
68	プリント基板加工機	MIT社製 Auto Lab	電子情報システム部	電子回路CADからの基板データ読み込み、基板加工
69	分極圧電特性評価システム	アグザクト TFA-1000	電子情報システム部	強誘電体の誘電特性を評価する装置

令和4年3月31日現在

整理No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
70	ベレット製造装置	菊川鉄工 KP280S	電子情報システム部	ベレットストープ用のベレットを製造する装置
71	ポータブル耐圧試験器	日置電機 3173	電子情報システム部	電子・電気機器や部品の絶縁・耐電圧試験
72	ホール効果測定装置	東陽テクニカ RESITEST 8310	電子情報システム部	半導体材料のキャリアタイプの判定及びキャリア濃度を測定する装置
73	ホットスターラー	アズワン RDH-1DN	電子情報システム部	半導体プロセス
74	マイクロピペット	エッペンドルフ リサーチプラスV（容量可変タイプ）/リファレンス（容量可変タイプ）	電子情報システム部	液体を定量（ μL ～ mL ）採取
75	マイクロフォーカスX線CT装置	Y. Cheetah uHD	電子情報システム部	電子基板、アルミ鋳造品等の非破壊観察
76	マニュアルウェッジワイヤーボンダー	ウェストボンド 7476D	電子情報システム部	電子デバイス等のチップ上に形成された電極へ電線を接続する装置
77	メカニカルシャーリングマシン	ニコテック製	電子情報システム部	鋼、アルミニウム、ステンレス薄板の材料切断
78	両面マスクアライナー	ユニオン光学 PEM-800	電子情報システム部	マスクを通してフォトレジストに紫外線を露光して微細パターンを作製する装置
79	DCクランプロガー	オムロン製 ZN-DCC11	電子情報システム部	直流電流値を計測。クランプ一体型ロガー
80	FT-IR用データ解析ソフトウェア	サーモフィッシャーサイエンティフィック(株)	機能材料技術部	赤外線吸収スペクトルで得られたスペクトルについて、複数の有機物が混合している可能性があるものを、それぞれ帰属・推定する装置
81	ESCA表面解析装置	(株)島津製作所製 KRATOS AXIS-NOVA	機能材料技術部	X線により励起された光電子により、固体物質表面の化学状態を分析する装置
82	GM式サーベイメータ	日立アロカメディカル(株)製 TGS-133	機能材料技術部	工業製品や食品などの表面汚染スクリーニング
83	3極セル (リチウムイオン二次電池（コイン型）評価用)	宝泉株式会社製	機能材料技術部	・3極セルによる電気化学測定用 ・リチウムイオン二次電池評価用
84	MALDI飛行時間型質量分析装置	ブルーカーボニクス(株) MALDI-TOF/TOFシステム	機能材料技術部	有機物の質量分析、及び糸状菌の微生物同定等を行う装置
85	X線回折装置	ブルカーエイエックスエス D8 DISCOVER	機能材料技術部	粉末、薄膜及びバルク材料の結晶相分析、結晶子サイズや結晶化度の測定
86	α/β 線用シンチレーションサーベイメータ	日立アロカメディカル(株)製 TSC-362	機能材料技術部	工業製品や食品などの表面汚染スクリーニング
87	イオンミリング装置	(株)日立ハイテクノロジーズ IM4000PLUS	機能材料技術部	試料断面観察のために、アルゴンイオンビームを用いて超平滑研磨する装置
88	大型乾燥機	(株)いすゞ製作所製 VTCW-2535-2T	機能材料技術部	フッ素樹脂及びシリコン樹脂等の耐熱塗料の恒温乾燥を行う機器
89	大型低温恒温器	ヤマト化学(株)製 INE800特型	機能材料技術部	温度/湿度を一定条件にした環境にして試験等実施する装置
90	ガウスメータ	Lake shore 421	機能材料技術部	永久磁石の表面磁束密度や電源ケーブル付近の交番磁場を測定する装置
91	乾式密度計	アキュピック製 1330	機能材料技術部	ヘリウム置換による固体密度を測定する機器（腐食性ガスを発生する材料は不可）
92	金属塗装被膜解析評価装置	日本電子製 JCM-6000	機能材料技術部	金属塗膜不良解析（簡易SEM）表面観察及び分析
93	顕微紫外分光分析装置	サーモフィッシャーサイエンティフィック(株) Nicolet iS50 + Continuum	機能材料技術部	有機物等の定性分析、官能基の種類や多重結合等分子構造の解析をする装置
94	顕微レーザーラマン	サーモフィッシャーサイエンティフィック(株) Nicolet Almega XR	機能材料技術部	有機物や鉱物の定性分析、分子構造解析や結晶構造解析をする装置
95	恒温槽付き引張試験機	・Instron 5982型 ・恒温槽：-60～250℃	機能材料技術部	-60～250℃の試験環境下で引張・曲げ・圧縮試験、機械的評価（伸び、ヤング率）、2Dデジタル画像相関法（DIC）によるひずみマッピングを行う装置
96	恒温槽付き引張試験機（フィルム試験片作製）	JIS K 7127フィルム試験片	機能材料技術部	JIS K 7127フィルム試験片の打ち抜き用具
97	光学シミュレータソフト	リーディングテックス ZEMAX-EE ODP	機能材料技術部	幾何光学及び物理光学の設計支援を行うシステム
98	工業用回転式マイクロトーム	ライカマイクロシステムズ(株) RM2265	機能材料技術部	試料断面観察のために、専用ナイフで試料を薄く切削加工する装置
99	高精度プローブ顕微鏡	エスアイアイ・ナノテクノロジー(株)製 L-trace II L	機能材料技術部	原子レベルの表面形状の観察、摩擦性能や粘弾性等機械的性質の表面分布を計測する装置
100	高せん断レオメータ	ハイスエアカピログラフNo.634	機能材料技術部	プラスチックの高せん断速度領域までの粘度を測定する機器
101	作業用実験台	ダルトン社製	機能材料技術部	分析試料の前処理を行うための作業台（ガラスピーカー等の一般的な器具類は付属）※放射性物質を含む材料の前処理は不可
102	自動エリブソメータ	DVA-36L	機能材料技術部	レーザーの屈折状態から、薄膜の膜厚等を評価する機器
103	衝撃試験装置	東洋デジタル製 DG-U型	機能材料技術部	プラスチックの衝撃強度を測定する装置
104	迅速熱伝導率計	京都電子工業(株) QTM-500	機能材料技術部	断熱材その他構造材料の熱伝導率測定

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
105	スガ式磨耗試験機	NUS-IS03	機能材料技術部	材料の表面の往復運動平面摩擦特性を評価する装置
106	全自動接触角測定装置	協和界面科学製 CA-V20	機能材料技術部	表面の濡れ性を計測・評価する測定装置
107	送風定温恒温器	ヤマト科学(株)製 DKN402	機能材料技術部	試料の乾燥等を行う機器
108	多機能ダイヤモンドワイヤーソー	メイワフォーシス(株) DWS3500P	機能材料技術部	微小な試料などを狙った位置で精度良く切断する装置
109	炭素硫黄同時分析装置	CS-200-SC-144DR型	機能材料技術部	金属材料中の炭素と硫黄を定量分析する装置
110	超短パルスレーザ微細加工機	(株)ラステック LPF-2	機能材料技術部	超短パルスレーザにより様々な素材に微細な加工を施す装置
111	低温恒温器	エスベック(株)製 PU-3KT	機能材料技術部	温度を一定に保つ機器
112	電解メッキ装置	マイクロセルシリコンウエハ用 セット A-53-M-ST01	機能材料技術部	・めっきの基礎研究評価 ・シリコンウエハ用電解メッキ槽
113	電気化学測定解析システム（ポテンシオスタット、ガルバノスタット、インピーダンス測定、EQCM測定）	ソーラトロン社製 ModuLab M- PSTAT	機能材料技術部	標準的な電気化学測定に対応。ポテンシオスタット、ガルバノスタットなどの基本機能内蔵。交流インピーダンス測定、EQCM測定など、多彩な電気化学測定が可能、電池評価もOK
114	電気マuffle炉	アドバンテック製 KM-280	機能材料技術部	1,100度まで温度の上がる炉
115	溶融混練機	テクノベル製	機能材料技術部	プラスチック同士の混練、プラスチックに無機充填材等を混練する機器
116	ナノインプリント装置（UV式）	エンジニアリング・システム(株)製 EUN-4200	機能材料技術部	光硬化性樹脂にモールド（金型）を押しつけて紫外線を照射することにより微細構造を転写する装置
117	ナノインプリント装置（熱式）	エンジニアリング・システム(株)製 EHN-3250	機能材料技術部	熱可塑性樹脂にモールド（金型）を押しつけて加熱することにより微細構造を転写する装置
118	熱分析システム（DIL）	ネッチゲレイテバウ製 DIL402C	機能材料技術部	熱膨張を測定する装置
119	熱分析システム(TG-DSC-QMS) ※アルミナあるいは白金パン使用の場合	ネッチゲレイテバウ製 STA409C	機能材料技術部	プラスチック等の融点や分解温度及び揮発ガスの質量を分析する装置
120	熱分析システム(TG-DSC-QMS) ※アルミニウムパン使用の場合	ネッチゲレイテバウ製 STA409C	機能材料技術部	プラスチック等の融点や分解温度及び揮発ガスの質量を分析する装置
121	熱分析システム(高感度DSC)	ネッチゲレイテバウ製 DSC204	機能材料技術部	プラスチック等の融点やガラス転移点などを測定する装置
122	フローテスター	島津製作所製 CFT500	機能材料技術部	プラスチックなどの流れやすさを測定する機器
123	分光蛍光光度計	日本分光(株) FP-8500	機能材料技術部	液体、固体、粉末試料の蛍光スペクトルを測定することで蛍光物質の定量分析を行う装置
124	分光反射率・透過率測定器	日本分光 V-550	機能材料技術部	各種材料の絶対反射率・透過率及び発光スペクトルを測定する装置
125	分光放射照度計	オーシャンフォトニクス(株) IRRAD-C-FILMS600-DH-ADP90	機能材料技術部	光源の分光照度や染色性評価、光子量子密度を測定する装置
126	ポテンシオスタット/ガルバノスタット	北斗電工 HAB-151	機能材料技術部	電気化学測定用ポテンシオスタット/ガルバノスタット
127	摩擦摩耗試験器	エー・アンド・デイ AZT-CA90	機能材料技術部	薄膜や材料表面の摩耗度を試験する装置
128	レーザー光散乱式粒度分布測定装置	MAM5005	機能材料技術部	レーザー光の散乱を利用した粒度分布を測定する装置（湿式・乾式とも測定可）
129	MAG半自動溶接機	ダイヘン製 ファシオート350	素形材プロセス技術部	鉄鋼材料を溶接する機器
130	オスミウムコーター	(株)真空デバイス製 HPC-20型	素形材プロセス技術部	絶縁材料電子顕微鏡観察の前処理
131	共焦点レーザー顕微鏡	レーザーテック(株)製 HYBRID L7	素形材プロセス技術部	非接触3次元形状測定
132	金属試料作成システム	アオバサイエンス ANS-M1000	素形材プロセス技術部	断面組織観察試料作製
133	工業用X線透過検査装置	MG-250	素形材プロセス技術部	材料の内部欠陥を検査する装置
134	高品位溶接加工システム	日鐵溶接工業(株) SWPS-1	素形材プロセス技術部	材料の肉盛溶接、切断、溶接接合ができる装置
135	コーティングテスター	ACT-JP 3型	素形材プロセス技術部	メッキや溶射皮膜等の試験を行う機器
136	三次元公差解析ソフト	サイバネットシステム CETOL6σ	素形材プロセス技術部	機械部品の寸法公差及び幾何公差の最適化シミュレーション
137	真空低温乾燥機	アドバンテック製 V0-420	素形材プロセス技術部	ロータリーポンプで真空引きしながら乾燥を行う（室温～220度）
138	精密切断機	平和テクニカ製 HS-100型	素形材プロセス技術部	金属材料の精密切断

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
139	全自動マイクロビッカース硬度計	ミットヨ製 HM-221	素形材プロセス技術部	金属材料等の硬さ測定
140	断面試料作製装置	日本電子製 SM-09020CP	素形材プロセス技術部	電子顕微鏡観察、結晶方位解析の前処理
141	電気マッフル炉		素形材プロセス技術部	金属材料を加熱する炉
142	微小圧縮試験機	島津製作所製 MCT-W500	素形材プロセス技術部	微小粒子、繊維等の圧縮強度測定
143	300kN万能材料試験機	エー・アンド・デー製テンシロン 万能試験機RTF-2430	素形材プロセス技術部	金属材料や複合材料等の引張・圧縮及び曲げ試験を行い、機械部品材料の機械特性を調べる
144	3Dデジタイジング装置	Carl Zeiss製COMET6_16M	素形材プロセス技術部	パターン光を照射しCCDカメラで形状スキャニングをする装置
145	3次元CADシステム	SolidWorks	素形材プロセス技術部	立体的なデザインを支援するシステム
146	5軸マシニングセンター	DMG社、HSC55linear	素形材プロセス技術部	金属をエンドミルを用いて金属を様々な形状に加工する機器
147	CNC三次元測定機	Carl Zeiss製UPMC550-CARAT	素形材プロセス技術部	立体製品の寸法や形状をサブミクロン台で測定
148	オープンCNC旋盤	SL-153MC他	素形材プロセス技術部	NC旋盤
149	ガス分析装置	LECO社RH-402-TC-500	素形材プロセス技術部	金属材料中の水素と酸素、窒素ガス含有量を定量する装置
150	画像処理測定顕微鏡	HyperQV404-PRO	素形材プロセス技術部	微細な部品を大量に非接触により測定する顕微鏡
151	金型デジタイジング装置	㈱ミットヨ製 Crysta-Apex C776	素形材プロセス技術部	ラインレーザ式プローブで三次元形状を高精度に測定し、三次元モデルを作成する機器
152	金型表面デザインCAD/CAMシステム	・Geomagic FreeForm Plus ・Craft MILL	素形材プロセス技術部	ポリゴン形式モデルを取り扱う意匠デザインCAD/CAMシステム
153	金属用光学顕微鏡	ライカ製 DMR/DC120	素形材プロセス技術部	金属材料組織を観察する顕微鏡
154	均熱加熱炉	中外エンジニアリング製 N60/14	素形材プロセス技術部	物質を加熱する炉
155	蛍光X線分析システム（広域部）	ブルカーエイエックスエス S8 TIGER	素形材プロセス技術部	材料に含まれる元素を、X線を当てて定性分析する装置
156	蛍光X線分析システム（微小部）	アメテック（株） ORBIS	素形材プロセス技術部	材料に含まれる元素を、X線を当てて定性分析する装置
157	顕微鏡装置（画像解析装置を含む）	顕微鏡装置：VANOX-NR T-P 画像解析装置：旭化成㈱「鏡像くん」A	素形材プロセス技術部	一般的な光学顕微鏡と顕微鏡画像により組織解析を行う装置一式
158	高周波溶解炉	(有)ハーデイズ社製 VF-TR14000	素形材プロセス技術部	高周波誘導加熱で金属を溶解する装置。溶解量は大気10kgと20kg、真空10kg（鉄換算）
159	高速度映像解析装置	㈱日本ローパー HG100K	素形材プロセス技術部	画像を取り込み、解析する装置
160	固体発光分光分析装置	アメテック㈱製 SPECTROLAB-M10	素形材プロセス技術部	鋼、鉄、アルミ合金、銅合金、亜鉛合金、マグネ合金の簡易定量分析する装置
161	三次元表面解析顕微鏡	ZYGO製 NewView100	素形材プロセス技術部	表面の凹凸を測定する機器
162	サンドミキサー	5DM-V	素形材プロセス技術部	鋳物砂を混練する機器
163	シャルピー衝撃試験機	JTトーシ製 C1-300	素形材プロセス技術部	材料の衝撃特性を測定する機器
164	樹脂流動解析装置（CAE部）	Autodesk Moldflow Insight Performance	素形材プロセス技術部	プラスチック成形時の金型内の樹脂流れを高精度にシミュレーションする装置
165	循環ファン付き箱型電気炉	中外エンジニアリング製 N30/A	素形材プロセス技術部	金属材料を加熱する炉
166	真円度測定機	アメテック製タリロンド595H	素形材プロセス技術部	機械部品の幾何形状（真円度、円筒度等）、表面粗さ及び輪郭形状測定及び解析可能
167	真空雰囲気式加熱炉	㈱倉田技研製 KVA-220/230	素形材プロセス技術部	金属の焼結、焼入れ、焼もどし、焼きなまし処理、セラミックスの焼成など
168	精密研磨機	ピューラー社製 メタザープ2000 型	素形材プロセス技術部	金属材料等試験片を研磨する機器
169	精密切断機	リファインテック製 RC0-270	素形材プロセス技術部	材料を砥石で切断加工する機器
170	精密旋盤	大日金属工業㈱製 DL530×100型	素形材プロセス技術部	金属等を回転させながら固定された切削工具で加工し、指定丸物形状に仕上げる装置
171	精密ラム形ソフトフライス盤	MAC-55P-3B	素形材プロセス技術部	試験片を加工する機器
172	走査型電子顕微鏡（EDS & EBSP機能付FE-SEM）	日本電子（株）製 JSM-7100F	素形材プロセス技術部	材料の微視的観察、元素定性分析、構造解析
173	炭素硫黄同時分析装置	米国LECO社製 CS744	素形材プロセス技術部	材料中の炭素（C）及び硫黄（S）の分析
174	鋳造用3D-CADシステム	クボテック製KEYCREATOR	素形材プロセス技術部	3Dモデルの作成
175	鋳造用構造解析システム	エヌエスティ社製FEMAP WITH NX NASTRAN	素形材プロセス技術部	部材の強度や変位など解析する。

令和4年3月31日現在

整理No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
176	鑄造用湯流れ・凝固解析、熱処理解析システム	クオリカ社製JSCAST、GRANTAS	素形材プロセス技術部	鑄造時、鑄型内部での金属溶湯の湯流れ、凝固をシミュレーションする。また、鋼材の熱処理をシミュレーションする
177	超微細放電加工機	EDSCAN8E	素形材プロセス技術部	微細形状を放電加工する機器
178	超微小硬さ試験機	エリオニクス製 ENT-1100	素形材プロセス技術部	微小領域の硬度測定
179	ニューマブラスター	不二製作所製 SGK-4	素形材プロセス技術部	空気圧で炭化珪素粒等を物体に当て、表面を清浄化する機器
180	バンドソーマシン	㈱ニコテック SCP-25SA II	素形材プロセス技術部	金属材料などを切断する機械
181	万能材料強度試験システム	UH-F1000kNI	素形材プロセス技術部	金属材料を最大1,000kN（100t）の荷重で引張、圧縮する装置
182	非接触3D形状測定機	キーエンス製VR-5000	素形材プロセス技術部	三次元形状を非接触で高速に測定する装置
183	ピッカース硬さ試験機	㈱ミットヨ HV-100	素形材プロセス技術部	金属やセラミックスの硬さ測定
184	表面粗さ等測定器	テーラーホブソン社製 PGI 1240	素形材プロセス技術部	測定物の表面を触針でなぞり、表面の粗さ及び形状を評価する機器
185	ピンオンディスク磨耗試験装置	SWT-405-03	素形材プロセス技術部	高硬度材を擦りつけ摩耗させる装置
186	ブリネル硬度計	JTトーン㈱ BH-3CF	素形材プロセス技術部	金属材料の硬さを測定する装置
187	平坦度測定装置	TROPEL社製 FM200XR	素形材プロセス技術部	測定面の平坦度を計測する装置
188	マイクロスコープ	キーエンス製VHX-7000	素形材プロセス技術部	低倍率から高倍率まで広いレンジで高解像度の画像を得る装置
189	マシニングセンタ	VS-3A、主軸回転数20,000rpm	素形材プロセス技術部	フライス加工する機器
190	ヤング率・剛性率評価装置	日本テクノラス㈱製 JE-RT, JG-unit	素形材プロセス技術部	材料のヤング率及び弾性率を測定するもの
191	油圧サーボ試験器システム	インストロン製 8874-A	素形材プロセス技術部	引張、圧縮、曲げ、ネジリ、摩擦磨耗試験により疲労特性及び摩擦磨耗特性を明らかにする装置
192	有限要素法解析システム	ANSYS、SPACECLAIM	素形材プロセス技術部	有限要素法を用いて設計支援を行うシステム
193	輪郭形状測定機	小坂研究所 DSF600S	素形材プロセス技術部	ナイフエッジで測定物の表面を走査して、輪郭を測定する機器
194	レーザー干渉計	レニシヨウ㈱製レーザー計測システムXL-80	素形材プロセス技術部	工作機械駆動軸の位置決め及び角度検査
195	レーザー三次元測定器	三鷹光器製 NH-3SP	素形材プロセス技術部	半導体レーザーのオートフォーカス機能により測定物の三次元座標を計測する機器
196	ロックウェル硬さ試験機	ミットヨ HR-521	素形材プロセス技術部	金属やプラスチック材料の硬さを測定する機器
197	ワイヤ放電加工機	三菱電機㈱製 MV1200	素形材プロセス技術部	金属材料の加工
198	3成分動力計	日本キスラー 9257B	素形材プロセス技術部	加えた力を測定するセンサ
199	A3フラットベッドスキャナー	EPSON ES-8500	産業デザイン部	印刷物などの原稿をスキャンする機器
200	44吋自動一面カンナ盤	44吋自動一面カンナ盤	産業デザイン部	木材を平面切削加工（主に厚さ決め加工）する機器（900mm）
201	A3フラットベッドスキャナー	EPSON ES-8500	産業デザイン部	印刷物などの原稿をスキャンする機器
202	DTP用カラープロダクションプリンター	Docucolor 1450 GA	産業デザイン部	色校正原稿印刷、コピー
203	インクジェットカラープリンタ	Epson PX-5600	産業デザイン部	A3ノビ対応インクジェットプリンタ
204	エアボーリングマシン	AB-112型	産業デザイン部	ダボ穴加工をする機器
205	大判カラープリンター	EPSON PX-H10000	産業デザイン部	B0ノビ対応インクジェットカラープリンタ
206	角のみ機	H71型手動	産業デザイン部	木材をほぞ穴あけ加工する機器
207	簡易精漆器		産業デザイン部	漆液の精製を行う装置
208	くで切盤	51-00019	産業デザイン部	木材を組み手加工する機器
209	グラフィックデザイン用コンピュータ	Apple iMac(27-inch Mid2010)	産業デザイン部	印刷物用版下などのデジタルデータを作成する機器
210	恒温恒湿機	YAMATO IG43M	産業デザイン部	特定の温度、湿度の環境下で試験する機器
211	高速度ルーター	PM-5A型	産業デザイン部	木材を成形加工及び中ぐり加工する機器

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
212	高速木工旋盤	HOKUSAN CL-J	産業デザイン部	成形刃物により木材を旋削加工する機器
213	コンブウッド蒸気加熱システム	CW M-2型	産業デザイン部	コンブウッド処理木材を前処理（木材を蒸煮）する装置
214	コンブウッド圧縮プレスシステム	CW98/1型	産業デザイン部	木材を縦圧縮処理する装置（加工材寸法：80×120×3,000mm）
215	自動一面かんな盤	桑原製作所 KU-N600	産業デザイン部	木材を平面切削加工（主に厚さ決め加工）する機器
216	縦突スライサー	SL250V	産業デザイン部	突板加工する機器（単板厚さ：0.3～2mm、長さ：4m）
217	スーパー万能糸鋸盤	旭工機株式会社スクローラ1000H	産業デザイン部	木材を曲線挽き、切り抜き加工する機器
218	スタジオ撮影システム	カメラ：Nikon D5 パソコン：Apple iMac、照明：COMET TWINCLE 04 F-RS、ほか補機	産業デザイン部	撮影スタジオにおけるデジタル写真撮影とその編集作業
219	精密万能試験機	株式会社東洋ボールドウイン製 UTM-10T	産業デザイン部	木材の引っ張り、圧縮、剪断、曲げ等を試験する機器（10t）
220	テーブル傾斜丸鋸盤	有限会社永和工業所USR-18TYPE	産業デザイン部	木材を鋸断加工する機器
221	手押しかんな盤	桑原製作所 KPN-400	産業デザイン部	木材のむら取りと基準面を切削加工する機器
222	デザインCAD用コンピューター	HP Z800、Autodesk Alias	産業デザイン部	3次元形状データを作成する装置
223	光造形装置	CMET NRM-6000	産業デザイン部	3次元形状データから樹脂製モデルを作成する装置（光造形法）
224	ブウレス	KP-W3W（48型）	産業デザイン部	木製品を組み立てる（主にフレーム用）電動のプレス機器
225	普通木工旋盤	北進産業㈱ WL-S6C	産業デザイン部	木材を旋削加工する機器
226	フリーボール盤	EF-450	産業デザイン部	木材を穿孔加工する機器
227	ホットプレス	PY-50E	産業デザイン部	恒温で圧力をかける機器（定盤寸法：400×400mm、温度：200℃）
228	木材加工処理装置付属品	恒温装置他	産業デザイン部	恒温機器（木材専用）
229	木材煮沸槽	ステンレス水槽（容量1立方メートル）	産業デザイン部	木材を煮沸（水温70度）する機器
230	ユニークサンダー	SE-30A	産業デザイン部	木材の研磨加工（主に平面研磨）する機器
231	ユニバーサルサンダー	長谷川鉄工製 HUS型	産業デザイン部	木材を研磨加工（主に成形）する機器
232	横切り丸鋸盤	協和機工 PW-1000A-HM	産業デザイン部	木材を鋸断加工する機器
233	レーザー彫刻機	Trotec Speedy 300 flex	産業デザイン部	コンピュータで制作した画像を基に、様々な材料に彫刻や切断を行う
234	熱溶解積層法3Dプリンター	Stratasys, Inc 製 Fortus 450mc	産業デザイン部	3次元形状データから材料押出法（熱溶解積層法）によって樹脂製モデルを作成する装置
235	アミノ酸アナライザー	日立ハイテクノロジーズ㈱製 高速アミノ酸分析計 L8900BF	醸造技術部	食品等に含まれる遊離アミノ酸を高速液体クロマトにより分離の上、ニンヒドリン試薬を用いたポストカラム誘導体化法により検出、定量する装置（生体アミノ酸分析モードで1検体あたり2時間で分析を実施）
236	アルコール蒸留器	C型、電気式、3本立て	醸造技術部	アルコールを測定する蒸留機器
237	大型遠心分離装置	サモフィジャーサイエンティフィック社製 Sorvall BP8	醸造技術部	大量の固液分離装置
238	加圧式大豆蒸煮缶	池田機械工業製 70型	醸造技術部	大豆蒸し器（大豆30～70kg）
239	ガスクロマトグラフ質量分析装置	アジレント・テクノロジー社製 TDU/MPS2他	醸造技術部	混合物を気化させ物質の分離、同定、定量する装置。脂肪酸分析、香り分析などに利用
240	ガスクロマトグラフ(GC-FID)	アジレント社製 7890GC-FID、G1888A、7683B	醸造技術部	混合物を気化させ物質の分離、定量する装置。脂肪酸分析、香り分析などに利用
241	キャピラリー電気泳動システム	エービーサイエックス製 PA800 s Plus	醸造技術部	有機酸・タンパク質・ペプチドの分析
242	携帯顕微鏡	オリンパス光学工業製 CH40-21	醸造技術部	異物等を観察する携帯用顕微鏡
243	減圧蒸留装置	VD-100	醸造技術部	焼酎、ブランデーを製造するための蒸留機器
244	恒温器（孵卵器）	ヤマト製 IS-61-CR	醸造技術部	一定温度で培養、保存試験する機器
245	自動蒸留装置	KRS-0396A	醸造技術部	焼酎、ブランデーを製造するための蒸留機器
246	自動製麴機	中立工業㈱製	醸造技術部	麴をつくる機器
247	自動製麴機（120kg）	ハクヨー製 三段式自動製麴機	醸造技術部	米麴を製造する機器

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
248	循環型精米機	はつかおり B-30M	醸造技術部	最大投入量 玄米30kg 60分タイマ付
249	蒸気殺菌装置	ホットボックス・サンキューボイラー	醸造技術部	蒸気で殺菌する機器
250	蒸きょう装置	増田商事製 OH-T-400	醸造技術部	大型蒸し器（白米100～400kg）
251	醸造用精米機	株式会社サタケNDB-15A	醸造技術部	醸造用原料米の精米
252	真空定温乾燥器	ヤマト製 DP-41	醸造技術部	減圧乾燥ができる機器
253	製麴用引込床	ハクヨー製 床用製麴機	醸造技術部	米麴を製造する機器（酒類）
254	送風定温恒温器	ヤマト製 DK600	醸造技術部	穀類の水分を測定、乾燥する機器
255	窒素分析システム	日本ゼネラル製 1035/1038他	醸造技術部	主に食品中のタンパク、窒素を定量する装置
256	坪刈用縦目篩選別器	藤原製作所製 SG-7W型	醸造技術部	穀類を粒度別にふるい分ける機器
257	匂いセンサーシステム	アルファ・モス・ジャパン(株)製 フラッシュGCノーズ Heracles II /LHS2/S	醸造技術部	食品の官能検査結果の数値化、包装材の影響の検討、匂い成分の迅速定量等
258	煮炊攪拌機	服部工業製 H-1-40RHST-22	醸造技術部	ニーダーの攪拌機
259	熱風循環式精密恒温槽	旭化学(株)製 サイエンスオープン S-100	醸造技術部	食品等水系のものを乾燥させる機械
260	燃焼式窒素/蛋白質分析装置	LECO社製 TruSpec N型	醸造技術部	食品など、有機系試料を燃焼させて生成したガスをセンサーで計測し、標準試料との比較により、窒素及び蛋白質を迅速に定量する
261	破碎機	株式会社木屋製作所	醸造技術部	果実等の破碎
262	微量高速冷却遠心機	トミー精工製 MRX150	醸造技術部	少量（2ml）用遠心分離器
263	瓶燻火入れ槽	殺菌処理室	醸造技術部	瓶詰めした酒及び果汁等の殺菌処理設備
264	分光光度計	サーモ社製 GENESYS 10S Vis	醸造技術部	特定の波長の強度を測定。溶液の着色度、濃度を分析
265	マルチオートカウンター	藤原製作所製 KC-10型	醸造技術部	穀類の千粒重を計測する機器
266	密度比重計	京都電子工業(株)製 DA-505	醸造技術部	液体の比重を測定する装置
267	ミニ精米機（30kg）	新中野工業製 RP-5型	醸造技術部	白米を精米する機器（30kg用）
268	油圧搾汁機	池田機械工業製 M-11-60-DS	醸造技術部	農産物用の搾り機器
269	フーリエ変換赤外分光装置	サーモフィッシャーサイエンティ フィック(株)製 Nicolet6700	食品技術部	有機物等の定性分析、多重結合や官能基の種類等分子構造の解析をする装置
270	B型粘度計	東機産業(株) TVB-10M型	食品技術部	液体の粘性測定用機器
271	DALogger (NaIシンチレーション サーベイメータ含む)	(有)ミサオネットワーク製 DALogger for ALOKA及び日立アロ カメディカル(株)製 TSC-172B	食品技術部	（サーベイメータ接続により）GPS及び線量率を同時記録する。線量率マッピング（汚染地図作成）が可能
272	DALogger (サーベイメータ用)	(有)ミサオネットワーク製 DALogger for ALOKA	食品技術部	（サーベイメータ接続により）GPS及び線量率を同時記録する。線量率マッピング（汚染地図作成）が可能
273	Ge半導体放射線スペクトロメトリ システム	セイコー・イージー・アンドジー (株)製 SEG-EMS他	食品技術部	食品や土壌の放射能測定
274	遠心エバポレーター	トミー製 CC181	食品技術部	試料を回転させながら乾燥させる機器
275	遠心分離機	トミー精工製 SRX200	食品技術部	遠心分離する機器
276	遠心分離機	MRX152	食品技術部	遠心分離する機器
277	オートクレーブ	トミー製 SS-245、滅菌用	食品技術部	高圧蒸気滅菌（主に培地等の滅菌用途）
278	環境放射線モニタ	(株)堀場製作所製 PA-1000 放射 能判定キット含む	食品技術部	空間線量率測定及び食品や土壌の放射能測定（簡易スクリーニング）
279	高温高圧調理殺菌試験機	日販製 RCS-40RTGN	食品技術部	レトルト食品等を試験する機器
280	高速液体クロマトグラフ	日本ウォーターズ製アライアンス 2690、検出器：PDA、蛍光	食品技術部	食品成分を分析する装置
281	小型高温高圧調理器	鳥取三洋電機製 クックロボ75L	食品技術部	簡易的なレトルト調理ができる機器
282	質量分析装置（LC/MS/MS）	(株)AB-SCIEX製 3200 Q TRAP 日本ウォーターズ(株)製 ACQUITY UPLC システム	食品技術部	食品等に含まれる微量成分を定量する装置

令和4年3月31日現在

整理 No	機器名	仕様・規格	担当部	機器の用途（概要）
283	食品加圧試験装置	神戸製鋼所製 Dr. Chef	食品技術部	超高圧をかけ、殺菌や食品加工を試験する機器
284	ショックフリーザー	ホシザキ電機(株) HBC-6TA3	食品技術部	食品の急速凍結
285	真空凍結乾燥機	共和真空技術製 RLE-103	食品技術部	食品を凍結乾燥する機器
286	真空包装機	ウェーボ製 E-10-GH	食品技術部	食品の封入に使用する機器
287	水分活性測定装置	デカゴン社 Aqua Lab Series 4 TEV	食品技術部	食品の水分活性値の測定
288	スチームオーブン	㈱マルゼン SSC-04SCNSTU	食品技術部	焼く、煮る、蒸す、炊く、茹でるの、加熱調理
289	スプレードライヤー	ヤマト科学㈱製 ADL310	食品技術部	食品の乾燥粉末を試作する装置
290	製麺機	150mm試験機	食品技術部	ソバ、うどん、中華麺を製麺する機器
291	超微粒摩砕機	増幸産業製 セレンディピター MKCA	食品技術部	固形の食品を磨砕、粉砕する機器
292	テンシプレスサー	タケトモ電機製 MyBoy	食品技術部	麺等を物性測定する機器
293	動的粘弾性測定装置	ティー・エイ・インストルメント 社 AR-G2	食品技術部	食品、医薬品及び塗料をはじめとする各種工業系材料等のレオロジー測定
294	万能型高速度粉砕機	HS-10型、架台付	食品技術部	小型の粉砕機器
295	物性試験システム	山電クリーブメータ製 RE33005	食品技術部	麺等の物性を測定する装置
296	ブラレンダーテストミル	クオドルマット・ジュニア	食品技術部	小麦、雑穀を製粉する機器
297	ブラレンダービスコグラフ	VS6E/PT100型	食品技術部	小麦粉生地を物性測定する機器
298	分光式色彩色差計	日本電色工業㈱ SD5000	食品技術部	食品など、各種試料の反射光及び透過光を380～720nmまで5nm間隔で取得し、色彩値として数値化および色差判定などを行う
299	放射線遮蔽体（サーベイメータ用 コリメーター）	日本遮蔽技研製 EARTHSHIELD Model-E	食品技術部	サーベイメータ検出部を遮蔽して、バックグラウンドの影響を低下させるもので、測定精度の向上に用いられる。GM及びNaIシンチレーション兼用タイプ
300	麺類製造装置（研究室用麺機）	大竹麺機製	食品技術部	製麺用の縦型ミキサー
301	麺類製造装置（麺用縦型ミキ サー）	大竹麺機製	食品技術部	小麦生地を捏ねる機器
302	冷麺機	三上麺機製作所製 油圧式	食品技術部	油圧式の麺押出機器
303	ロータリーエバポレーター	RE-10E型	食品技術部	果汁等を減圧濃縮する機器
304	NaIシンチレーションサーベ イメータ	日立アロカメディカル㈱製 TCS- 172B	食品技術部	工業製品や食品などの表面汚染スクリーニング
305	NaIシンチレーションサーベ イメータ	日立アロカメディカル㈱製 TCS- 172B	食品技術部	工業製品や食品などの表面汚染スクリーニング
306	放射線遮蔽体（サーベイメータ用 コリメーター）	日本遮蔽技研製 EARTHSHIELD Model-E	食品技術部	サーベイメータ検出部を遮蔽して、バックグラウンドの影響を低下させるもので、測定精度の向上に用いられる。GM及びNaIシンチレーション兼用タイプ